

○坂下賢副委員長 続いて、社民フォーラム県議団の質疑を行います。

なお、質疑時間は答弁を含めて十五分です。岸田清実委員。

○岸田清実委員 四病院再編問題、特に精神医療センターを中心に質疑をしたいと思えます。

かつて、問題になっていた社会的入院、退院先がなくて入院が長期化する、そういう状態を克服するために、精神医療センター職員、あるいは協力者によって、グループホームが県内では先駆けてつくられました。そして、様々な偏見を克服しながら施設とネットワークが、特に名取市を中心に拡大してきました。この現状をどういうふうに把握して、県としてどう評価しているのか。現在の地で精神科に理解を示している地域や関係者とのネットワークは、貴重な財産であると思えますけれども、これについてどういうふうに考えているのでしょうか。こういう財産を新たな地で、近隣のクリニックや精神科病院に移し、継続していくことは、簡単ではないということを併せて指摘しておきたいと思えます。いかがでしょうか。

○伊藤哲也保健福祉部長 委員お話しのように、グループホームの設立には、精神医療センターの前身であります名取病院の職員や地域の方々の御尽力があったものと聞いておりまして、非常に重要な社会資源であると考えております。現在の患者や家族の方々が必要なサービスを継続して受けられるような、できる限りの配慮をしまいたいと考えております。

○岸田清実委員 こういう退院者を受け入れるグループホームなどは、入所者がストレスなどによって幻覚とか幻聴とか、そういう病状が悪化した場合には、精神医療センターから職員がすぐに駆けつける、そういう精神医療センターとの密接な協力関係の中で成り立っているわけでありまして。時間、あるいは距離的にもすぐ対応できる範囲でなければならぬと思えますけれども、これについてはどう考えるのでしょうか。精神医療センターの一部機能を現地に残す選択肢もあると言われておりますけれども、マンパワーの分散ともなり慎重に考えるべきだという意見も聞こえております。いかがでしょうか。

○伊藤哲也保健福祉部長 精神医療センターについては、老朽化している施設を早期に建て替え、全室個室化や身体合併症にも対応できる医療体制を実現することが第一の課

題と考えて取り組んでいるところでもあります。また、精神医療センターは、全県的な精神科救急を担っており、全県からのアクセスの利便性も視野に立地場所について検討しているところでもあります。お話のような現在通院されている方々の利便性という問題は、もちろん大きな問題だと思っております。診療機能を一部残すというようなお話、そういった御意見があることも承知しております。その点について、どのようにして必要なサービスを継続して受けられるかということについて、配慮していきたいと考えております。

○岸田清実委員 答弁はきちんと適切にやってください。通院者のことは言っていないですよ。グループホームのことを言っているのですよ。グループホームと病院はきちんと連携している。すぐ駆けつけるといふ範囲でないと駄目だということについて質問しているのですよ。全然答えてないですよ。精神医療センターが移転するとなれば、周辺に同様の退院者の受皿、こういう整備が必要になるわけです。名取市では、旧名取病院以来の六五年の歴史の中で徐々に偏見を克服しながら、現在の施設とネットワークがつくられているわけです。現在の環境を移転先で新たに作り上げるためには、地域の理解を得ることから始まって、改めて長い年月がかかる。病院開設とともに、富谷市やその周辺施設と同様のネットワークをつくるのは無理だと思うのですけれども、いかがですか。

○伊藤哲也保健福祉部長 これにつきましては、先ほど申しましたように、現在名取市におられる方々が継続して必要なサービスが受けられるかについては、できる限り配慮してまいりたいと考えております。また、全県を視野に、今後どのような医療機能、既存の医療機関との連携を含めて対応できるかということについてもしっかりと検討してまいります。

○岸田清実委員 やはり答えてないですよ。例えば、グループホームとか周辺の退院の受皿とか、そういうのをつくるためには、長い時間がかかるのではないですかと云っているのですよ。それを富谷市にできるのですかと聞いているのですよ。どうなんですか。

○村井嘉浩知事 当然、新しい場所に移りますと、距離がありますから、今までのようにすぐ近くにあるわけでは決してありませんので、いろいろ御不便をおかけすることはあろうかと思えます。ただ、これはグループホームにいる人たちのことだけを考えてや

る病院ではなくて、宮城県全体の救急医療、精神医療を考える全ての県民が対象となる病院であるということでもありますので、そういった大所高所から考えて、私は立地場所としては、宮城県のへその部分のほうがいいだろうと。また、名取市にいる人だけが、グループホームにいる人たちだけが通っているわけではなくて、大崎市や石巻市から通っている方もおられるということでもありますので、そういった全体のバランスを考える。ただし、まだ決まっておりませんが、場所がもし仮に富谷市に決まったとしたならば、今いるグループホームの人たちをどうケアしていくのかということは、非常に重要な課題でありますので、しっかり考えて、切り捨てることはいけません。

○岸田清実委員 通院者のことを繰り返し言うのだけれども、精神医療センターの関係者に聞いても、例えば公共交通機関の乗換えが無理な人が多いということ聞きます。そのために名取市とか仙台市太白区とか、精神医療センターに近いところに住んでいるわけですよ。あるいは仙南からの通院者が多いです。富谷市に移転したときに、周辺にこういう住居が確保できるのか、あるいは乗換えが難しい患者の通院をどういうふうに考えるのでしょうか。

○伊藤哲也保健福祉部長 富谷市に移った場合というお尋ねでありますけれども、現在名取市など精神医療センター周辺に住んでおられる方々の通院や訪問看護などで果たしている、現在の精神医療センターの役割をどのように担っていくかということについては、施設や医療関係者の御意見も含めて検討してまいりたいと考えております。

○岸田清実委員 知事から、先ほどいろいろ検討していくというようなお話もありませんけれども、知事は繰り返し患者を置き去りにすることはしないと断言しておりました。全くそのとおりです。しかし、今幾つか指摘しましたけれども、こういうことが解決されなければ、置き去りになるのですよ、結果的に。これをどうするかということをきちんと示さなければならぬ。そういうことだと思っております。掛け声だけでは、何も解決しない。しっかり、やはりこういうことについて答えなければいけないですよ。このことについてはどうですか。

○村井嘉浩知事 できる限り答えるように努力をしてみたいと思います。ただ、まだ具体的な場所、富谷市というのは私の思いで選挙のときに訴えました。ただし、今協議を始めている。東北労災病院側が、労働者健康安全機構のほうはどう考えるのか、そ

ういったようなことを確認した上で、まずは大枠を決めた後に、その次にそういったようなことを順を追って検討してまいりたいと思っております。

○岸田清実委員 先ほども、がんセンター隣接地の話が出ました。そのときの部長の答弁は文化財とかでしたかね、農振除外でしたかね、そういう手続などがあるので、時間的にかかるという答弁でしたよね。だけど、そこに移転するつもりで準備したわけですよね。しかも、設計図ができているんじゃないですか。先ほどの答弁だとゼロベースから始まるので時間がかかるような、そういう答弁に聞こえたけれども、一旦あそこに移転しようと思って準備を進めたわけですよ。最終的に判こを押してもらえなくて断念しただけの話で、設計図だってできているじゃないですか。そういう意味では、そこに移転するというのが、例えば……。確かに老朽化していますよ。雨漏りしてバケツを廊下に置かなければいけないような今の施設だから、それは早く建て替えしなきゃいけないことはそうだけれども。そういうことだったら、がんセンターと廊下で結べば通常医療にだってアクセスできるわけだから、これは有力な選択肢になるんじゃないですか。しかもゼロベースではないのですから。改めて聞きます。

○伊藤哲也保健福祉部長 御指摘のがんセンター隣接地ですけれども、確かにこれまでの経緯の中で候補地としたことがありますので、そういう意味ではそういった経緯を踏まえて、今でも一つの候補地であることは言えると思います。ただ、現時点では一刻も早く移転したいということ。それから、身体合併症と一緒に――総合病院化するというような意味での合築という方向で検討しておりますので、そのような観点からどのような場所が一番最適かということを考えているということでもあります。

○岸田清実委員 一つの選択肢だということは、今答弁で述べられたので、確認をしておきたいと思えます。それで、人材の問題、これも先ほどわたなべ委員から指摘がありました。精神医療センターは三交代なのです。日勤と夕方から夜中までの準夜勤務、それから夜中から朝までの深夜勤務。深夜勤務をやる人は日勤とセットですよ。だから、日中勤務して一旦うちに帰って、それで家庭のある人は家事をやって、それで夜中に出勤して朝まで仕事をするわけですよ。こういうことのために、病院周辺に職員はみんな住んでいるわけですよ。これが、富谷市に仮に行ったら、一日二往復ですよ。日勤して夜中に出勤して寝ないで朝帰ってきて。こういうことに対して、職員からは、富谷市へ

の通勤は心が折れそう、こういう声が上がっています。精神科病院での経験とスキルというものは、簡単に身につくものではありません。したがって、有用な人材を失うことになるのではないでしょうか。県立病院機構労働組合のこの点の指摘に、県は質問状に対して、高い意識と生きがいを感じながら新病院で力を発揮してほしい、これが回答ですよ。こういう問題を精神力で対応しようということですか。我慢して精神力で働けということですか、どうですか。

○村井嘉浩知事 決してそういうことではありません。もちろん、富谷市に仮に移転した場合はですね、職員の通勤の負担が増える可能性は当然あるわけでありまして。先月の三日、二月三日に私、精神医療センターを訪問いたしました。まずは、患者にとつて、しっかりと頑張っていたいただきたいとお話をいたしました。まずは、患者にとつて、そしてこれから入院される、あるいは通院される方にとっていい場所にするということ、県民のためになる病院になると、そこを一義的に考える。そして、その上でスタッフに働きやすい病院にするということが重要だと思えます。今、精神医療センターで働いている方について迷惑をかけるというお話でありますけれども、これは全ての県職員に当てはまる話でありまして、突然ほかのところに転居することだってあるわけでありまして、そういった意味では職員として協力をしていただきたいと思えます。その上で、どうしてもいろいろな都合があつてできないという方については、個別に相談に乗ってまいりたいと思っております。

○岸田清実委員 経験とスキル、特に精神科の人材は貴重で、これは大事に考えてほしいと思えますよ。

原子力災害時避難計画について伺います。

今年度予算に原子力防災研修調査費と緊急時避難円滑化推進費、退域時検査等場所と全体の避難時間のことは、関係ありますよね。検査場所前後の渋滞で避難時間も変わるわけですから。これ、連携しなければならぬと思うんですよね。これについてはどういうふうに考えますか。

○佐藤達哉復興・危機管理部長 令和元年度に実施いたしました避難経路阻害要因調査は、実態以上に交通量を増やすなど、過大な負荷をかけてシミュレーションを行ったものでございます。その結果、特定の避難退域時検査等場所周辺において、避難経路の重

複、交差、合流などに伴う渋滞が発生しやすいことが判明いたしております。その対策として、検査場所や避難経路の分散化、それから検査場所の処理能力向上や検査場所内の動線の改善などが必要であることを把握しております。検査場所や避難経路の分散化につきましては、昨年、避難退域時検査等場所を二か所追加したところでございますので、来年度実施予定の交通シミュレーションに反映してまいります。また、検査場所の処理能力向上や検査場所内外の動線の改善については、来年度から三か年で実施いたします緊急時避難円滑化事業により、令和六年度、効果を確認することとしております。

○岸田清実委員　あと、緊急時対応で、退域時検査場所に東京電力から六百人の人員派遣というふうになっているし、あと現在仙台地方裁判所で争われている女川原発再稼働差止め訴訟でも、東北電力からの反論書にそういうふうに記載されています。この六百人という具体的な数字が出されてくる、その協議に県は加わっていたのか、あるいはどのような議論が行われたのか、その根拠は何なのか、これはどうなんですか。

○佐藤達哉復興・危機管理部長　内閣府におきましては、地域防災計画や避難計画の具体化・充実化を支援するため、女川地域原子力防災協議会を設置しております。この協議会には、県も参画しておりますが、令和二年三月に開催されました同協議会の作業部会におきまして、内閣府から女川地域の緊急時対応案が示されまして、その中に原子力災害時には、東北電力が避難退域時検査等場所へ六百人程度動員することが盛り込まれたものでございます。原子力災害におきましては、災害の状況や規模により避難退域時検査等場所の設置数や必要となる人員の数が異なっております。東北電力が避難退域時検査等場所に派遣することとしておりますこの六百人につきましては、初動時に対応が可能な人員数であると伺っております。派遣されました人員は設置される検査場所の数やレーンの数に応じて配置されることとなると考えております。